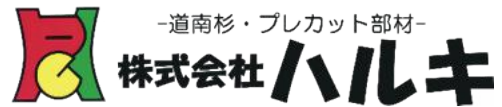


HARUKI NEWS

増大号

森、林業、木育 近すぎてわからない

そんな木のこと知っていますか？



北海道茅部郡森町字姫川 11 番 13 号

TEL / 01374-2-5057 FAX / 01374-2-2397

e-mail / info@mori-haruki.co.jp

H.P / <http://mori-haruki.co.jp>



林業って、どんなことをするのか
知ってますか？

森の中で木を伐る。
工場で木材を加工する。

林業の大黒柱はこの仕事。

でも、実は林業って
「森林を育てて、人間生活に
利用するのを目的とする産業」

つまり
木を育て、整備して、そして使う。
それが林業なのです。





日本の木って？

森林の減少が問題になっている世界。

でも、日本の森の面積は 40 年間、あまり変わっていません。

それどころか、森林は増えていっています。

だからなんとっ！日本の森林所有率は先進国の中で第3位。



外国の木>日本の木

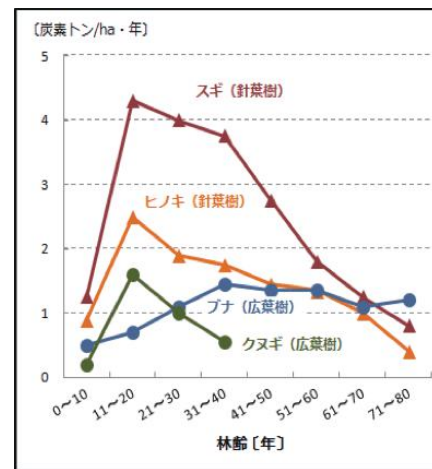
日本は、使用する木材の半分以上を輸入に頼り、自分たちの木材を使うのは3割ぐらい。

昭和 30 年頃、今から 60 年くらい前までは、木材自給率が 9 割以上だったのに、

現在は、世界で有数の木材輸入国になってしまったんです…

輸入が自由になったことによって、国産の木材の価格が上がリ、

外国材がびっくりするほど安く買えるようになったのが理由です。



北海道の土地の約 7 割が森林。

そのうち人工林の割合は 27%。27%という数字だけ見ると、なんだか少ないように思ってしまう。でも、その面積は 150 万 ha。このうち、約 60%が伐期に入っています。

「木を伐ってもいいの？」

「木って生えてると地球温暖化を防いでくれるんじゃないの？」

実は、木が二酸化炭素を吸収してくれるのは大体 40 年くらい。そのため適切な時期に木を伐採して、その木を使うことが今の日本に求められています。



木を使う

家に木材を使う。

子供の遊び道具を木製のものにする。

ご飯を食べるときに木の箸を使う。

それが、木を使うこと。

木を最大限、最後まで使い切るために、林業界では、様々な工夫がされています。

例えば株式会社ハルキでは、木材の大きさを整えるために切り落とした端材や、木チップは売って、必要としている人たちへの手に渡ります。それが加工されて紙や紙パック、デザイナーの手によってフラワーアレンジメントとして生まれ変わっているんです。木の皮だって、捨てません。木の皮は牛の寝床、動物の糞と混ぜて肥料として利用されています。そのために、人の手で木の皮の仕分けを行い、石が入っていないかを丁寧に確認しています。それでも余ってしまう端材や、木のチップ、木の皮はバイオマスボイラーの燃料として活用されています。バイオマスボイラーで作られる大量の熱は、木の水分を飛ばすための機械に送るエネルギーになります。

「木に捨てるところはない。」

その言葉の通り、ハルキでは木を大切に活用しています。





木育

木育(もくいく)は北海道で生まれた言葉です。木育の理念は、「木とふれあい 木に学び 木と生きる」こと。木育に決まった形はありません。でもこれだけじゃあ分かりづらいですね。

木で、何かを作ったことはありますか？木の絵を描いたことは？木を見上げて「すごい」と感じたことは？木製の製品を見て「いいな」と思ったことはありますか？

木を見て、感じて、ふれて、一緒に生きる。自分

で作ったものを「大切にしよう」と思う。描いた絵から、木は一本一本違う形をしていると知る。すごいと感じたその感動を糧に、その環境が失われている今の時代について考える。いいなと思ったその感情から、また、木の製品を買う。「木って、いいよねえ」と言葉に出る。

木育って、つまりそういうことなんです。色んな職業の人が、「木って、いいよねえ」を広めたいと思ってる。その専門家である「木育マイスター」の活動も北海道から始まりました。

「木を身近に」ハルキの取り組み

実際にどんな木育が行われているのでしょうか。ここでは、株式会社ハルキの例を紹介します。



病室木質化計画

この計画は病室に木を利用することで、木で癒されるか、使い勝手はどうかなど、病院にとって良いものかどうかを調べるために始まりました。現在、函館の函館中央病院に設置さ

れていますが、普通の病室に後付けができるため、作業は一日で終わります。電動ドライバーの使用中外は大きな音も出ず、両隣の病室に患者が居た状況のまま設置できます。



森小学校の天板替えプロジェクト

森小学校の机の天板替えとメンテナンス。小学生たちが自分の使っている机の天板を交換



し、一年後にはその机のメンテナンス作業を行いました。

企画・開発室 室長に インタビュー



鈴木 正樹さん

関東出身。建築専門学校卒業後、放浪。
大手企業に就職後、
北海道森町への移住を決めた。

○鈴木さんは木育マスターの一期生。なぜ、木育マスターになると思ったんですか？

はじめは、道からの推薦だった。あとは、研修が札幌であるから、札幌に行けるなあと思って。(笑)でも根本にあるのは、自分がここ(森町)に移住してきて、すごく良い町だと思って、ここで暮らしてここで一生を終えたいなあと思った。それで、俺は子供が三人いるんだけど、その子たちのことを考えたときに、このままじゃあ、この子たちはここに居れないなと思った。森町での仕事は減っていて、森町から出て行かなければならなくなる。仕事がないなかで、どうしたらいいかを考えたときに町をよくしていかなければならないと思ったんだよね。じゃあ、どうしたらいいの?って考えたときに、大きく考えると、町をよくしていけないといけなくなって思った。じゃあ、町をよくしていくためには?って考えたときに、やっぱり、「木育」に力を入れていくべきじゃないかなって。役場も注目し始めていて、少しずつではあるけど、木育のイベントもやってる。木育には、町を元気にする力がある。これがきっかけっていうか、根本はそこにあるんじゃないかなって。

○木育マスターって どれくらいの規模なんですか？

一期・二期はだいたい 80 人いて、年間 20 人増えてるから、全道的には 300 人くらいじゃないかなあ。仲いいのはそのうち 30 人くらいだけど、専用のメーリングリストがあるから招集すれば何人でもって感じだね。業種も色んなのがいっぱいいて、地域おこしの人とか、役場の人とか、いろんな人が協力してる。

○一番良かった木育イベントは なんですか？

森小学校のメンテナンスのやつがやっぱり一番良かったかなあ。自分で傷つけたやつを自分で磨かなきゃいけないっていうのを、体験するっていうのは、これぞ木育だな!って感じでした。天板替えから、メンテナンスの間にたくさん机を傷つけた子は、直すのに時間がかかって、その後、大切に扱うようになった。今は消耗品が多くて、木育を通して物を大切にする心が養えたのはいいことだなって思いましたね。



▲無印良品シエスタ函館の木育広場

鈴木さんも参加した函館での大きな木育活動の一つ。全体が木で囲まれた空間になっており、自由に遊べる。

入社1年目に インタビュー



難波 佑里花さん

生まれも育ちも札幌。絵が得意。
鈴木さんの下で、木育マスターの勉強中。

○なぜ木育マスターの資格を取ろうと思ったんですか？

木育をしていて、自分の立場があやふやだった。木材の会社の人とかスタッフとかっていう手伝っている人っていう立場よりも、木育マスターとして参加する方が木育活動をしている意義があるよねって言われたのもあるし、いろんな木育マスターさんとか、大人とか子供とかと関わっていく中で、面白い人が沢山いたし、この人たちみたいになりたい、仲間になりたいって思ったから。子供って、鉛筆を持つじゃないですか。その時に「これって木だなあ」って思うだけじゃなくて、それを木だと思った時に、その奥にある森林を想像できるようになるのが木育って聞いて、木育って深いなあと思ったのが一番のきっかけかもしれない。今回研修に当選したので、頑張ってきます。

○最後にひとこと

木育スタッフをやってみて、「軽い足で参加してもらおう」のが大事だなあって思っていて、無印さんの木育で「よかったね」って言ってもらえて、固定客はついてきてるけど、新規顧客がいないと、木育は広がっていかないから、今後の課題はそれかなって思ってます。そのために私ができることがあるかもしれない。林業で働く20代の女性っていうのが、この業界や木育を広げていくために必要になるんじゃないかなって思っていて、私が絵をかけるとか、ちょっとだけけど動画を作る技術を使っているような情報を発信したり、新しいことをするのが、未来の私かなあって思ってます。

コラム ハルキの山にやってきた。

そこには多少の変化はあっても、大きく、太く、しっかりと、空に伸びる森林の今を知るために、私たちはハルキの代表取締役である春木芳則社長に、ハルキで所有する山に連れて行ってもらいました。木が沢山ありました。空を覆うように枝葉が伸びているのに、眩しいと感じるほど日光が射し、鉈で道を切り開かなければならないほどに下草が沢山生えていました。「肥料をまかなくても、これが枯れると木の栄養になる。」春木社長の言葉です。草の間から地面を見ると、確かにそこには枯れ落ちた草が土も見えないほどに落ちていました。

私たちの目からだと、のびのびと空へと向かっている木。ですが、芯が柔らかいため、大きな風が吹くとしなり、隣の木と傷つけあってしまいます。地面から生えるツタも天敵です。強い力で木に巻き付くツタは、木の芯を折ってしまいます。隣の木に負けて、十分な日光を浴びれずに白い斑点が浮いて出てしまっている木。大きく立派に育った木と細く頼りない小さな木。隣地の木や、鳥などによって種が運ばれてきた天然の木、虫などの外敵との生存競争に負けて、同じ年に植えても、太いものと細いものとで差ができてしまっていることが、社長の話聞いて知ることができました。





会社概要

商号／株式会社ハルキ

創業(個人)／1960年(昭和35年)

法人設立／1989年(平成1年)

所在地／北海道茅部郡森町字姫川11番13号

TEL／01374-2-5057

FAX／01374-2-2397

H.P／<http://www.mori-haruki.co.jp/>

○集成材工場

・八雲工場 二海郡八雲町三杉町 25-38

○営業所

・函館営業所 亀田郡七飯町字上藤城 55

TEL／0138-66-2177

FAX／0138-66-2187

・札幌営業所 札幌市白石区平和通17丁目
南3-2

TEL／011-375-7702

FAX／011-375-7703

編集後記

HARUKI NEWS 増大号は、株式会社ハルキのインターン生が制作を担当しました。

株式会社ハルキさんでは木育のイベントへの参加や、工場の仕事を体験、山へ連れて行ってもらったりと濃い2週間を過ごすことができました。広報誌を作る時に1番気をつけたのはわかりやすい内容にすることでした。ハルキさんで学んだこと、教えていただいた木の凄さを知っていただけると幸いです。(村上)

今回が初めてのインターンで、普通の大学生生活を送ってはい出来ない経験を、たくさんさせていただきました。広報誌は、広報誌作成を行っていくなかで、私たちが色々な人から聞いて知った、木のこと、林業のこと、木育のことなどを伝えられたらと思います!(鈴木)

HARUKI NEWS 増刊号

発行日 2018年9月14日

発行 株式会社ハルキ

制作 村上弓那 鈴木志穂

編集 堺千里